

生産現場革新の進め方

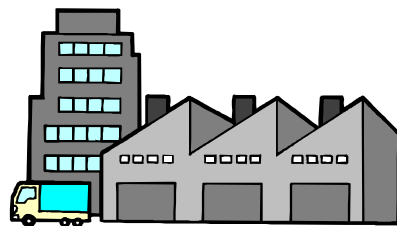
～生産マネジメントと生産現場のIT化～

■研修内容

本協議会への会員各社様は、お客様との取引強化や、新規取引の拡大が急務と思います。そのためには、お客様の理解と、自らの強みや弱みを再認識することとともに、それらの対策としての内部強化策、競合他社に対する競争力を事業の力に結び付けることがキープポイントになります。

そこで、標準高度化教育「モノづくり生産革新リーダー」養成講座では、生産部門で、自社の生産革新をリーダーとして進める社員を研修対象としています。

この研修では、生産システムの「改善」を中心とした考え方から発想を転換することで生産現場のイノベーションを行い、状況に応じた適切な生産を実現する手法を学びます。



概 要

■日程:2016年 1月15日(金)

■時間:10時～16時半

■会場:倉吉交流プラザ(第1研修室)

■定員:15名(先着順)

※定員を超える場合、同一企業人数は調整させていただく場合があります。

■受講料 1,000円(一人当たり、テキスト代含む)

《お申込みの流れ》

①受講者:受講申込書に必要事項を記入し、下記連絡先にファクシミリで申し込んでください。

②事務局:受講通知を受講者様宛に、申込書に記載のメールアドレスへ送信します。

③受講料:セミナー当日持参してください。

■講習時に用意いただくもの

筆記用具

《キャンセルについて》

・受講料受領後に、受講者様のご都合により、受講途中でご出席出来なくなった場合は、お支払いいただいた受講料の返金は致しかねますので、予めご了承下さい。

■主催:鳥取県戦略産業雇用創造プロジェクト推進協議会

《連絡先》 鳥取県戦略産業雇用創造プロジェクト推進協議会中部支部

(鳥取県立産業人材育成センター倉吉校 内)

電 話:0858-27-5333

ファクシミリ:0858-27-5334

電子メール: sangyoujinzai-center@pref.tottori.jp

プログラム

1.マネジメント技術の役割と生産現場の問題解決

- ① 管理と管理技術
- ② 問題解決の考え方とアプローチ
- ③ 管理指標
- ④ 経営資源の流れとその役割
- ⑤ グループワーク

2.分析的アプローチ(ムダ取り)

- ① 問題発見の視点
- ② 工程分析による改善
- ③ 工程分析の演習

3.設計的アプローチ(あるべきシステムの姿の追及)

- ① 設計的な手法
- ② 設計的アプローチによる改革
- ③ 設計的アプローチの演習

4.モノの流れと仕事の流れの改善

- ① 流動数分析と在庫・リードタイムの削減
- ② マテリアルフロー分析による個別管理
- ③ 流れの分析の演習

5.改善から改革へ

- ① 改善ツールを改革ツールへ
- ② ICT技術の利活用
- ③ 管理者の役割

講師プロフィール

【渡邊 一衛(わたなべ いちえ)】

成蹊大学 名誉教授

【略歴】

1950年生まれ 横浜出身 慶應義塾大学工学部管理工学科卒、大学院工学研究科管理工学専攻修了、1986年工学博士(慶應義塾大学) 1984年成蹊大学工学部経営工学科助手、その後専任講師、助教授を経て1994年教授となる。2001年経営・情報工学科、2005年理工学部情報科学科へ組織変更、2015年3月退職。現在名誉教授。専門は生産管理、モノづくりやサービスづくり、ロジスティクスを中心にシステムの効率化の指導と講義を行う。日本経営工学会、設備管理学会、日本IE協会、日本ロジスティクスシステム協会、日本科学技術連盟などに所属。

【著書】

中村昌弘・渡邊一衛「グローバル生産の究極形」日経BP

渡邊一衛監修 ビジネスキャリア生産管理標準テキスト2級・3級 全8冊 中央職業能力開発協会

日本経営工学会編(共同執筆)「生産管理用語事典」日本規格協会など

